

主 題： 神の救いとは

聖書箇所：エペソ人への手紙2章8－10節

テーマ：救いとは、神が人間を罪とその罪がもたらす永遠の滅びから救い出し、永遠のいのちを人間に与えてくださるといふ神のわざであり、すべての人間がこの救いを真剣に考えなければならない

きょうはエペソ2：8－10と一緒に学んでいきたいと思います。きょうのテーマは、「救いとは、神が人間を罪とその罪がもたらす永遠の滅びから救い出し、永遠のいのちを人間に与えてくださるといふ神のわざであり、すべての人間がこの救いを真剣に考えなければならない」ということです。

私たちは自分の人生を歩むとき、多くの質問に出会います。そしてその質問の答えを見つけ出して生きていく必要があります。皆さん、「あなたの人生において、何を手に入れることが最も重要なことですか？」と尋ねられたら、どのようにお答えになりますか？様々な答えが考えられます。ある人は「健康を手に入れることが最も大事だ。」と答えるかもしれません。またある人は「安定した暮らしを手に入れることが最も大切だ。」と答えるかもしれないし、「定まった良い仕事を手に入れることが私にとって大切なことです。」と答える人がいるかもしれません。また「社会的地位や名誉などを手に入れることが私にとって最も大切なことです。」と答える人もいるでしょう。答えはほかにもいろいろあるかもしれません。確かにこれらのことは、どれも否定されるものではないかもしれませんが、よく考えてみると、どれもが継続して私たちに保障されたものではありません。ときには病気や事故によって私たちは健康を失うことがあります。また自分の責任ではなく、社会状況や周りの状況によって安定した暮らしや仕事やまた社会的地位を失うこともあります。それは皆さんがよく知っておられることです。そうであるなら、私たちの人生において継続して与えられる本当に大切なものは何なのでしょう？何を自分のものとするのが最も重要なのでしょうか？私たちはその答えを見出すことができるのでしょうか？皆さんはどう思われますか？その答えは、「はい、見出すことができます」です。聖書がその答えを私たちに明示してくれています。神のことばである聖書は、私たち人間が信じなければならない真理と、行わなければならない責任とを教えているからです。

マタイ16：26にこう書かれています。「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」これはイエス様が言われたことばです。ここでイエス様は、最も大切なことは、「まことのいのちを得ることです。」と言われました。「この世の富をすべて手に入れても、まことのいのちを手に入れなかったなら何の得がありますか？何の得もないでしょう。このまことのいのちこそ、私たちが手に入れるべき最も大切なものです。」とイエス様は言われるのです。

しかし残念ながら、生まれてくるすべての人間はだれひとりとして、このまことのいのちを持って生まれてきません。それには原因があるのです。その原因は、「私たちの罪にある」と聖書は教えています。ローマ5：12にはこう書かれています。「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。」私たちの罪のことについてパウロは教えています。またきょう皆さんとともに学ぶエペソ2：1－3にはこのように記されています。「：1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、：2 そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました。：3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを

受けるべき子らでした。」「私たちは救われるその時までずーっと罪の暗闇の中で過ごしてきた。」とパウロは教えています。

罪とは

では「罪」とは何なのでしょう？聖書が教える「罪」とはどういうことなのでしょう？この世では「規則を破る」それが罪ですね。そしてその規則を破るならば刑罰があります。しかし聖書が教える罪は、この世の教える罪とは内容が違います。「罪」とは、「的外れ」ということです。「的外れの生き方をする事、正しい方向に向かって歩んでいないこと」、それを聖書は「罪」だと教えています。その内容はこういうことです。「思いにおいても、行いにおいても、神の命令に従わないこと」です。また、「神を無視して自己中心に生きること」です。この的外れの生き方、それは「神の聖さ、また正しさに対する私たちの違反行為」です。これを聖書は「罪」だと教えています。この地上にだれかひとりでも罪と無関係な者がいるのでしょうか？聖書は「いない」と教えています。それは次のように書いてある通りです。ローマ3：10－12「：10 義人はいない。ひとりもない。：11 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。：12 すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行なう人はいない。ひとりもない。」これが、神様から見た私たちの姿です。「神を求める者はいない。…ひとりもない。」

そして、この罪に対しては、神のさばきがあることが聖書を通して教えられています。それは、永遠の滅びに至る、ということです。パウロはⅡテサロニケ1：8－9でこう書き記しています。「：8 そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。：9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。」「永遠の滅びの刑罰を受けるのです。」と聖書は教えています。皆さん、私たちが手に入れなければならない最も大切なもの、このまことのいのちを得るためには、自分の罪を悔い改めて、この罪がもたらす永遠のさばきから救われる必要があるのです。実は、私の救いの出発は、この神のさばきである「地獄」ということばを聞いた時でした。今から約40年前、先のこの教会の牧師だった近藤修司先生と二人の姉妹が我が家を訪ねて来ました。私に用事があったわけではなく、妻に聖書を教えるために来られたのです。その当時住んでいた我が家はすごい豪邸ではなく狭いハイツでした。隣の部屋で近藤先生が妻に「もう奥さんと子どもたちはイエス様を信じられたから天国へ行きますよ。」と話されたのです。その話を聞いて、私はえっ？と思ったのです。えー？妻と子どもは天国へ行く。じゃ、私はどこ行くの？それを聞きたくて戸を開けたら、すぐ隣ですからね、よく話が聞こえていましたので、「先生、私はどこへ行くんですか？」と聞いたんです。近藤先生はただ、「あ、ご主人はこのままだったら地獄です。」こう言われたのです。素っ気も何もない返事でした。「地獄です。」このことばを聞いた時、私はとっさに「いや、それは困ります。家族と違うところに行くのは、それは困ります。」と言ったことを今でも覚えています。これが私の信仰の始まりでした。

神の救い

皆さん、私たちは、神のさばきから救われる必要があるのです。救われなければ、永遠のいのちをいただくことはできないのです。それで、きょうはエペソ2：8－10を通して、この神の救いとはどのようなものであるのかを学んでいきます。おそらく多くの方がこのエペソ2：8－10から多くのメッセージを聞き、また自分でも何回もこの箇所を読まれたことだろうと思います。でも、この箇所は私たちの救いにおいて大切なことを記している箇所ですので、もう一度皆さんと見ていきたいと思えます。

「救い」

J. I. パッカーという神学者は、自分の著書の中でこの「救い」についてこう記してありました。「キリスト教の福音の中心テーマは「救い」である。「救い」は危険と悲惨から安全な状態へ救出するという概念を表現し、(中略)キリストを信じるすべての者を罪と罪の結果から救う、これが福音の宣言である。」(J. I. パッカー聖書教理がわかる94章P184)冒頭でも言いましたが、神が人間を罪とそ

の罪がもたらす永遠のさばきから救い出し、まことのいのちを人間に与えてくださるこの神のみわざ、それが「救い」です。きょう見るエペソ2：8－10は、その救いの確信を記しているところです。

エペソ2：8－10

「8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。：9 行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。：10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」

A. 救いの内容

最初に救いの内容を見ていきたいと思います。三つあります。

1. 救いは神の恵み

まず一つ目は「救いは神の恵み」だということです。8節に、「恵みのゆえに、…救われたのです。」と書かれています。「恵みのゆえに…」それは、ただそれだけの理由で、ということです。同じ2：5には「あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。」と記されています。そうです。私たちが救われたのは、ただこの神の恵みによってです。

では「恵み」とはどういうことを言うのでしょうか？この「恵み」ギリシャ語では「カリス」ということばが使われているのですが、それは、「人間の働き（行い）に対する報酬ではなく、全く価しない者、全く働きのない者に与えられる神からの一方的な賜物、プレゼントであり、この恵みは、神ご自身のみこころによって与えられるもの」です。「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」とパウロはローマ3：24で述べています。また同じエペソ1：7でも、「私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。」と記しています。またパウロはⅡテモテ1：9でも、この恵みについて言及しています。「神は私たちが救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、…」 「この恵みはキリスト・イエスにおいて私たちに永遠の昔に与えられたものであ」と教えています。この「恵み」は「報酬」とは違います。皆さんは普段は仕事に出て行きその職場で働きます。働いたらその働きに応じて賃金を与えられますね。その働きに応じて与えられるものは「報酬」ですね。「恵み」は全く働きのない者に与えられる神からの賜物だ、とみことばは教えます。この恵みによって神は私たちが救った、ということです。この神の恵みを受け取る人もいれば、受け取らない人も確かにいます。これは私たち人間の選択の責任です。なぜなら、救いはすべての人に開かれているからです。救いは一方的に神から提示されているものです。救いを受けるにふさわしくない者に「さあ、わたしの救いを受けなさい」と神が言われるのです。そして、この救いには何一つ条件はありません。「神はすべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。」Ⅰテモテ2：4です。

皆さん、よく考えてみてください。もし、神がこの救いを受けるに価する者だけにこの救いを与えるのであれば、だれひとりとして救われる者はいないということです。救われる価値のある者は残念ながらひとりもいないのです。神は恵みによって私たちに救いを備えてくださったと聖書は教えています。これが救いのまず一つのことです。

2. 救いは信仰による

二つ目は、「救いは信仰によ」と8節のところに書かれています。「恵みのうちに信仰によって救われたのです。」「信仰」[πιστις]、動詞は「信じる」ということです。「信仰」そして「信じる」というこのことばは、合わせると新約聖書の中で240回以上も使われていると言われています。この「信仰」は神に対する全幅の信頼であり、「神を信じ、受け入れ、従うこと」を意味しています。ヨハネ

1 : 1 2にこう書かれています。「…この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」

a. この行為は全人格的な応答です

さて皆さん、この「信仰」は、私たちの神に対する全人格的な応答です。ただ感情による応答ではありません。また、ただ意志による応答でもありません。知識だけの応答でもありません。すべてを含んだ私たちの応答、これが「信仰」です。知識、感情、意志を含んだものです。

b. この信仰も聖霊なる神の働きです

しかし聖書は不思議ですね。この信仰も聖霊なる神の働きによって私たちにもたらされる、と教えています。Iコリント12 : 3に「…また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です。」と言うことはできません。」と書かれています。先ほど私は、信仰は私たちの神に対する全人格的な応答だと述べました。しかしよく考えてみると、霊的に盲目な私たちの心に、神に対する思いはなかったのです。「聖霊」が働いて、信じるという思いを私たちに与えてくださらなければ、私たちは信仰を持つことはできないということです。

c. この救いはイエス・キリストを通してのみ与えられる

そしてこの「信仰」「救い」は、イエス・キリストを通してのみ、ということです。ですから、イエス・キリストを自分の救い主として信じ、また自分の主として受け入れるときにのみ、私たちは救われるのです。皆さんもよくご存知のヨハネ3 : 16にはこう記されています。おそらく多くの方が暗唱されているでしょう。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」と聖書は教えています。また使徒4 : 12には「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」と書かれています。もちろん「この方」は、「イエス・キリスト」ですね。そしてイエス様はこう言われたのです。ヨハネ14 : 6「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のもとに来ることはありません。」「救い」、それはイエス・キリストを信じる信仰によってのみ得られるということです。これが二つ目です。恵みによって、信仰によって…。

3. 人の行いによっては救われない

三つ目は、「人の行いによっては救われない」ということです。8節には、「自分自身から出たことではなく、」と書かれています。それは、私たちがした行いによってではなく、ということです。またパウロは念を押すように9節で「行ないによるものではありません。」とはっきりと私たちに教えています。私たちの行いによって救われるのではない、ということです。「人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰による…」とパウロはローマ3 : 28で言っています。同じことをパウロはガラテヤ2 : 16でも「…人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、」と書いています。行いによるものではありません。もし私たちが自分の行いや自分の努力によって救われるならば、私たちはその行いや自分の努力を誇ります。自分の力によって自分を救うことができるのだと言うのです。だから9節に「だれも誇ることはないためです。」と書かれています。

信仰の父であるアブラハムはどうだったのでしょうか？パウロはこのアブラハムのことについてローマ4 : 1-3で述べていますが、要約すると、「アブラハムが神によって義と認められたのは、彼の行いによったのではなく、神はアブラハムの信仰を義なるものと認められた」ということです。パウロはまさに創世記15 : 6のこぼしを引用してここに記したのです。「彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」もちろん彼とはアブラハムのことです。アブラハムはまず主を信じたのです。それを神は「よし」とされたということです。私たち人間にとって明らかなことは、罪ある人間が神の御前でと

ることができる態度は、ただ「神様どうかこのような罪深い私を救ってください。」と願うことだけです。しかし、「真実の神は、私たちの心からの願いを聞き入れてくださり、恵みによって、イエス・キリストを信じる信仰によって、罪深い私たちを救ってくださる。私たちの行いによってではない。」と聖書は教えています。救われている皆さん、皆さんの救いは、ここに記されている救いですか？そうならば神に感謝しましょう。そして今、まことのいのち、永遠のいのちをいただいていることを確信していますか？そうならば神に感謝しましょう。そして、この礼拝堂の中またこのライブ放送を聞いている人たちの中に、まだイエス・キリストを信じておられない方がおられるのならお勧めします。神の救いはあなたにも用意されているのです。ですからぜひ、この救いを受け取っていただきたいと思います。永遠のいのちをいただいている皆さん、ハレルヤです。感謝です。神様ありがとうございます、ですね。

B・救いの目的—救われた者の生き方—

でも、ここで「救い」は終わりではないのです。Ⅱコリント5：17のは「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と書かれています。この救いによって新しく造り変えられた人には、神の目的、救いの目的があることを10節は私たちに教えています。

10節には「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」「私たちは神の作品であって」と書かれています。この「作品」ということばは、作者である神によって救われた人は、新しく造られた人となったことを意味しています。私たちは美術館などに行って絵や書を見ることがあります。またコンサートで音楽を聴くでしょう。また本を買って読むこともあります。芸術の分野だけではなく他の分野においても生み出される様々な作品、それは作者が意図し、その作品の中に作者の思いが表されているということです。作品とはそのようなものです。それと同じように、新しく造られた私たちには、新しいいのちの中で、新しい性質、神の意図する性質をいただいていることをこの「作品」ということばは教えています。

1. だれによってか

9節で「私たちは自分の行いによっては救われぬ」と教えられました。それは、自分の力によって自分を新しく造り変えることはできない、ということです。だれかによって私たちは新しく造り変えられたのです。「キリスト・イエスにあって造られたのです。」と10節に書かれています。「キリスト・イエスにあって」とは、キリストと信仰によって結び合わされていることを私たちに教えます。それは

in

「キリスト・イエスのわざによって」ということです。それは私たちの罪のためにかかられたあの十字架と、そして復活です。ペテロはⅠペテロ2：24で「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたはいやされたのです。」「それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。」と教えています。イエス様は十字架上で「完了した。」と言われました。それは、私たちを救う贖いのわざ、代価を払って買い取るというその働きすべてを成し遂げたイエス様の叫びだったのです。

2. 新しく造られた者はどのように生きる（歩む）のか

さて皆さん、新しく造られた者、それはどのような目的を持って新しく造られたのか？10節には「良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。」と記されています。「良い行ないをするために…」（～するために）ヰepi（新しく造られた者のいのちの中に良い行いが完全に組み込まれていることを強調している）神の救いには、明らかな目的があります。それは、救われた私たちが「良い行ないをするため」だ、と聖書は教えています。新しく造られた者は、新しい性質をいただき、新しい

歩みができる者となったのです。もしその人の救いが良い行いを生み出さないならば、その救いには？がつくかもしれません。それは、救いはすべて神のわざであり、神のなさることはすべて完全だからです。だから救われたすべての人が、良い行いをする者になるということです。このことについて、ヤコブもパウロと同じように、本当に救われた者には「行ない」が伴うと述べています。「たましいを離れたからだ、死んだものであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。」ヤコブ書 2 : 26

良い行いとは

では、「良い行ない」とはどのような行いなのでしょう？それは神が喜ばれる行い（生き方、歩み）のことです。パウロは同じエペソ 5 : 8 でこのように記しています。「あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。」

では、光の子どもらしく歩み続けるためにはどうすればいいのでしょうか？ 5 : 10 に「そのためには、」と書かれています。「そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」「光の子どもらしく歩むそのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」と。新しく造られ、光の中を歩んでいる者は自分を喜ばせるのではなく、主を喜ばせようという思いを持って自分の意志によって行動するという事です。そしてパウロは 5 : 17 でまた念を押すようにこう書いています。「ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかをよく悟りなさい。」この「愚かにならないで」は、本質的に知恵が不足している、と言っているものではありません。それは行動、行いにおける愚かさを言っているのです。ですから、「愚かな生き方をするのではなく、主のみこころは何であるかをよく悟って歩みなさい」ということです。神のみこころを知り、理解し、そして行うことが、私たちの人生において最優先にされるべきです。10節は、救われた者の救いの目的をはっきりと記しています。「私たちは良い行いをするために救われた」とみことばははっきり教えているのです。

3. 神の配慮はすべてにおいて完全

しかし、聖書はすばらしく本当に欠けがなく完全！ 10節の後半には、こう記されてあります。「その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」まさに神のご配慮は完全だということです。新しく造られた者には、中身もその方向性もすべて神がすでに準備されている、と私たちに教えます。またエペソ 1 : 4 には「選び」が記されていますが、「御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」とあるように、その「選び」の目的にも合致するのです。また神の働きの先行を私たちに教えているピリピ 2 : 13 「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」と、このエペソ 2 : 10 の「その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです」は一致するものです。私たち救われた者には救いの目的がある、ということです。

○まとめ

私たちが神によって救われたのは、まず「神の恵みによって」です。そして「イエス・キリストを信じる信仰によって」です。三つ目は「自分の行いによるのではない」ということです。ですから、神の救いは 100% 神のわざによるものです。そしてイエス・キリストが代価を払って買い取ってくださったその贖いのみわざによって救われ新しく造り変えられた者は、新しい人生を歩む者となったのです。皆さん、神の計り知れない愛とあわれみは、私たちの人生すべてにおいて働かれるのです。まことのいのちを手に入れたすべての人には、神の計り知れない祝福が約束されています。最後に詩篇 18 : 30-32 をお読みして、きょうの学びを終えたいと思います。「:30 神、その道は完全。【主】のみことばは純粋。主はすべて彼に身を避ける者の盾。:31 まことに、【主】のほかにはだれが神であろうか。私たちの神を除いて、だれが岩であろうか。:32 この神こそ、私に力を帯びさせて私の道を完全にされる。」